

「天空杯少年少女空手道交流錬成大会競技規程」

(形競技)

1. 競技方式は赤、青のトーナメント、フラッグ方式を採用。(審判は5人制)。各コート決勝戦まで行う。
2. 小・中学生有級の部の予選はすべて基本形、平安、ピンアン、撃砕の中から選んで演武し、同じ形を1回戦から決勝戦まで演武しても良い。なお、同部門は決勝戦のみ指定形、自由形の使用も可。
3. 小・中学生有段(初段補含む)の部は予選、決勝戦ともに指定形、自由形から選んでもよい。もちろん基本形、平安、ピンアン、撃砕から選んでもよい。ただし、決勝戦は予選で使用した形を使用してはならない。なお、全クラスで3位決定戦は予選と同一形でもよい。
4. 団体戦は各道場から2チームエントリー可とする。チームは3人制。チーム編成は小・中学生、男女、有級・有段混合でチーム編成してもよい。
5. 団体戦は小・中学生有級の部と同様、予選は基本形、平安、ピンアン、撃砕の中から選んで演武し、同じ形で1回戦から準決勝戦まで演武してもよい。ただし、決勝戦は予選で使用した形を演武してはならない。
6. 団体戦の決勝戦は指定形または自由形の使用可。団体戦は「決勝残し」。
7. 選手は礼節を重んじ、入退場の際は審判、対戦相手にきちんと礼をすること。

(組手競技)

1. 競技方式は赤、青のトーナメント方式を採用。審判編成は1コート5名、監査役1名。
2. 組手競技の勝敗は**幼児の部のみ4ポイント先取、小・中学生の部は6ポイント先取**とする。
3. ポイントの参考例は、突き技が上・中段とも1ポイント。蹴り技は中段が2ポイント、上段蹴りが3ポイント。相手を足払い等で倒した技からの突き技は3ポイント。
4. 個人戦は各クラス**決勝戦まで行う**。※**団体組手が最終種目とする**。
5. 競技時間は幼児の部が予選～決勝戦まで**1分のランニングタイム**とする。
小学生の部は予選～決勝戦まで**1分のフルタイム**で行う。中学生は男女共予選～決勝戦は**1分30秒のフルタイム**とする。※**団体戦の各クラスにおいても同様とする**。
6. 各安全防具は全空連認定のノンコンタクト用を採用。それ以外は認めない。
7. 本大会は10カウントルールは採用しない。よって接触によるダウンの場合は敏速に対応する。
8. 本大会は倒れた、もしくは倒した相手に対する「蹴り」による攻撃は全て危険行為とし、蹴り技が決まっても反則(カテゴリー2、接触した場合はカテゴリー1)とする。(※突きはポイントとみなす)
9. カテゴリー1、2については審判員は厳しく対処し、事故の未然防止に心がける。
10. 団体戦は「引き分け」があり団体戦終了後、勝敗が同点であれば代表戦を行う。その際、試合時間は**1分フルタイム**。代表戦でも勝敗がつかない場合は終了時点での展開等を考慮し勝敗を決する。
11. 団体戦は3人制(先鋒・中堅・大将)。先鋒が小学3・4年生、中堅が同5・6年生、大将が中学生で編成すること。なお、大将(中学生)は学年をとわない。小中学生とも男女混合を認めるが、全て男子、女子で編成してもよい。(例:先鋒、小学3・4年男子、中堅、小学5・6年女子、大将、中学男子(女子)など)
12. 団体戦は各道場から2チームまでエントリー可とする。
13. 団体戦の競技規定は各クラスの個人競技規定に準ずる。ただし、詳細は審判長に一任する。
14. 選手は礼節を重んじ、入退場の際は、対戦相手にきちんと礼をすること。

※ 全競技、(公財)全日本空手道連盟審判規定に準じ、一部本大会競技規定を採用します。

ミサンガなど装飾品をつけての試合参加は不可。カラーTシャツ着用も不可。ただし女子は白・無地は可とする。男子のTシャツ着用は白、無地も不可。ただし、なんらかの理由がある場合(身体的理由など)は、事前に審判長まで申告し許可を得た場合は着用を認める。なお、競技判定については審判長、コート長、審判員に一任し判定についての抗議などは一切認めません。